

横幹・温故知新 設立時の新聞記事から

2003年4月7日東京大学
山上会館にて行われた
横幹連合設立総会につ
いては、いくつかの新聞
にて報道されました。



◆文理30学会が「横断連合」
研究の世界に根強い
「縦割り」の弊害をな
くそうと、文系、理系を
超えた30学会が7日、
「横断型基幹科学技術
研究団体連合」（会長、
吉川弘之・産業技術総
合研究所理事長）を設立
した。
傘下の学会に加盟する
会員は約5万3000人。
災害に強い都市計画
やロボットなど共通する
テーマで共同研究に取り
組む。そこで生まれた技
術をスムーズに産業応用
に結びつけたり、横断研
究の重要性について政策
提言もまとめる。
【元村有希子】

■毎日新聞
(2003年4月8日(火))

中小の30学会結集
会員数1万人に満た
ない中小規模の30学会
が結集した「横断型基
幹科学技術研究団体連
合」が7日、設立総会
を開いた。従来の科学
技術を横断する新たな
学問体系「横断型基幹
科学技術」の重要性を
アピールし、学問の進
展につなげる。産業界
の支援団体を組織する
ことも計画している。
懇親会を開く
「横断連合」が充足
同連合はシステム制
御情報学会や日本ロボ
ット学会など30学会で
構成し、会員総数は約
5万3000人（重複
含む）。会長には吉川
弘之日本学術会議会長
が就任した。事務局は
当面、計測自動制御学
会が担当する。
ワークショップやシ
ンポジウム、講演会、
懇親会を開く
ほか、ニュー
ズレターや共通ジャー
ナルの発行なども計画
している。会員データ
ベースや会費徴収など
各学会の事務共通化も
図りたいとしている。

■日刊工業新聞
(2003年4月8日(火))

学際的な研究
実現目指す団体
30の学会が設立へ
日本植物工芸学会や精
密工学会、社会・経済シ
ステム学会など三十の学
会が7日、学際的な研究
の実現を目指して「横断
型基幹科学技術研究団体
連合」を設立する。自然
科学だけでなく社会科学
系の学会も参加、文理融
合の研究体制確立を目指
す。初代会長には吉川弘
之日本学術会議会長が就
任の予定。

■日本経済新聞
(2003年4月8日(火))


毎日新聞 2005年11月9日朝刊での科学環境部・元村記者によるコラム

「ほかがつくへん」といえば、いちずな人へのほめ言葉だ。しかし専門ばかりが増えるのは困る。他分野に暗いことを「私は××屋なので」と言い訳する専門家が多いのが気になる。

何とかしたいと考える学者たちが、「横幹連合」というNPOを作った。文系、理系の43学会、延べ6万5000人が参加する。統計、制御、経営など、製造業の基盤を担う分野だが、モノづくりならぬ「コトづくり」を、長野市で開く大会で宣言するという。


これまでのモノづくりは、技術が主役だった。確かに技術の進歩で暮らしは便利になり、日本は世界一のモノづくり大国になった。しかし限界も見えてきた。

高精度な地盤計や通信網があるのに、なぜ震災



コトづくり

「専門家は何ですか」となる。ここから変える必要がある。(科学環境部)



元村有希子

で多くの犠牲が出るのか。医療技術が発達しても、医療過剰をなくせないのはなぜか。縦割りの、単一の分野や技術だけでは解決しない課題が、社会にはたくさんある。

「コトづくりは……だったらいいな」と私たちが願う価値が主役だ。どうすれば実現するかを、分野の壁を越えて模索する。専門や技術は手段として働く。

発想の転換だが、言うほど簡単ではない。大学の学科からして縦割りで、学生は複数の分野を専攻できない。特定の学部には所属せず、専攻も決まらない九州大の「21世紀プログラム」の学生は、就職面接で企業幹部から「いきみの専門は？」の質問攻めにあっている。

政治家は、初対面の相手と見れば必ず「選挙区はどこですか」と聞く。これが研究の世界だと「専門は何ですか」となる。ここから変える必要がある。(科学環境部)

2005年11月26・27日開催の第1回横幹
コンファレンスを紹介する記事

■日本経済新聞
(2005年11月21日(月))

文理学問融合、初の学術大会

横幹連合
25日から

学問や研究の専門・細分化による限界を打破することを目指す、学会の連合組織「横断型基幹科学技術研究団体連合」会長・吉川弘之産業技術総合研究所理事長は、初

の学術大会となる第一回横幹連合コンファレンスを二十五日から長野市で開く。「知のダイナミックデザイン」をテーマとした同会合では二百件を超え

る学術発表のほか、「コトづくり長野宣言」を採択。文理の学問融合による新たな学術領域の確立や、社会問題解決への応用などを目指すことを表明する。

横幹連合は二〇〇三年に設立。計測自動制御や人間工学、プロジェクトマネジメント、デザインなど四十三学会が加盟し、会員約六万五千人を擁している。

第1回横幹コンファレンスの際に、会員学会の会長懇談会を開催し、「コトづくり長野宣言」(見返しに掲載)を採択しました。



第48回自動制御連合講演会
第1回横幹連合コンファレンス

開催日: 2005年11月25日(金)・26日(土)
会場: JA長野県ビル(長野市)

主催: 自動制御連合講演会(計測自動制御学会(新卒学会), システム制御情報学会, 日本機械学会, 化学工学部, 電気工学部, 日本航空宇宙学会)
協賛: 横幹連合(計測自動制御学会(新卒学会), システム制御情報学会, 日本機械学会, 化学工学部, 電気工学部, 日本航空宇宙学会)

問合せ先: 信州大学 第48回自動制御連合講演会事務局 e-mail: jidou48@pjptc.shinshu-u.ac.jp

理工系中心に43学会が参加 「横幹連合」が長野で大会



第1回横幹連合コンファレンスのパネル討論

理工系を中心にごまごまな分野の研究者が連携を図るため、国内の四十分野の研究者が連携するNPO法人「横断型基幹科学技術研究団体連合」(横幹連合)の第一回大会が二十五日、長野市の農協ビルで二日間の日程で始まった。参加する全学会が集まるのは初めて。

同連合は二〇〇三年四月に設立。専門分野を横断する形で意見交換を進め、産業界や国の施策に提言するのが狙いだ。

初日は約三百三十人が参加し、パネル討論や論文発表を行った。パネル討論では、信大工学部の遠藤守信教授ら五人が「異分野と強制的にでも

組んで技術や知識を共有すれば、新しい技術やモデルが生まれる」など意見交換した。

同連合は、一連の取り組みを「コトづくり」としており、この日は、人材育成や新しい学問領域をつくり出すことをうたった「コトづくり長野宣言」も採択した。

二十六日は午後零時四十分から、内閣府の総合科学技術会議議員で、元三菱重工常務の柘植綾夫氏が特別講演する。

■信濃毎日新聞
(2005年11月26日(土))